「第 26 回家きん疾病小委員会の概要について」より抜粋

本年 1 月に発生した宮崎県及び岡山県における防疫対応を踏まえ、特定家畜伝染病防疫指針の変更について検討した結果、次の事項について、今後、パブリックコメントを行うとともに、都道府県及び関係団体等の意見も聞くこととされた。

(1) 速やかな防疫措置の実施

- ・本年 1 月の発生時の運用を踏まえ、簡易キットにおいて陽性となった時点で公表し、隔離等の防疫措置を速やかに行うこととする。
- ・現地防疫対策本部の体制を明確にすることで、発生農場の防疫措置と同時に周辺の農場の清浄性確認検査を行うなど防疫対応等の一層の迅速化を図ることとする。

(2) 交通規制等に係る警察との連携

- ・防疫対応を行う際の公道の交通規制・通行遮断などについては、都道府県警察にも連絡し協力を得ながら円滑かつ適切な防疫措置を図ることとする。

(3) 移動制限措置の運用の見直し

ア 移動制限区域内の食鳥処理場

- ・新たに設ける衛生条件を満たした場合に限り、ウイルス感染のおそれのない移動制限区域外の生きた鶏を搬入し、食鳥処理することができることとする。
- ・移動制限区域外で食鳥処理された食鳥肉（中抜きと体など）を搬入し、加工することが、可能であることを明確にする。

イ 移動制限区域内のふ卵場

- ・新たに設ける衛生条件を満たした場合に限り、ウイルス感染のおそれのない移動制限区域外で生産された種卵を搬入しふ化させ、そのヒナを移動制限区域外に移動することができることとする。

ウ 家きん卵の出荷検査方法

- ・移動制限区域内の農場で生産された食用の家きん卵を移動するために必要な家きん卵出荷監視検査に関しては、従来の PCR 法に加えて、動物用医薬品として承認された診断薬による検査も可能とする。

(4) 速やかな清浄性の確認

- ・発生農場の周辺にある農場の清浄性確認を速やかに行うため、ウイルス分離により患者と決定された後は、発生農場の防疫措置の実施中であっても、直ちに清浄性確認検査を実施できることとする。